



あったかハート推進週間の取組（9月）

今年度、附属小学校では子供たちに温かな心を一層育むことを重点として取り組んでいます。

9月は、以下の内容で道徳科の授業を行いました。

| 月 | 期 間 | 内 容 |
|----|----------------|--------------------------------|
| 9月 | 9/5（月）・9/28（水） | 道徳科の授業② ※学習参観で実施 内容項目：生命の尊さ |

1 実際の授業 9月5日（月）

【2年生】

2年生は「ぴよちゃんとひまわり」を読んで、かけがえのない命があることについて考えました。ひよこのぴよちゃんは、餌であるひまわりの種を育てることを通して、互いに愛着を深めていきます。その様子から子供は、ひよこのぴよちゃんにとって、ひまわりの種はかけがえのない存在に変化していると、考えを深めました。



日頃、共に生活を送る自分の周りにいる人をかけがえのない存在と認識し、自分も学級の仲間や家族の命を大切にしようと考えることができました。

【4年生】

4年生は「しかえししないよ」を読んで、命を大切にすることについて考えました。登場人物の日野原医師は、105歳まで現役の医師として活躍した人です。90歳を過ぎてから子供に伝えたいことがあると教壇に立った日野原医師の「自分の時間を誰かのために使ってほしい」というメッセージから、なぜ自分の時間を誰かのために使うことが、命を大切にすることにつながるのかについて考えました。

人と助け合うことが、互いの関係をよりよいものにし、互いの命を輝かせると気付いていきました。

【6年生】

6年生は「命を見つめて」を読んで、右大腿骨骨肉腫という病気と懸命に闘った猿渡瞳さんの生き方から、「命」について学びました。資料を読んだ子供は、ただ「かわいそう」で終わらず、瞳さんからのメッセージをしっかりと受け止めていました。

「生きるとは」という問いに対する、授業冒頭の考えと授業終盤の答えを比べると、「精いっぱい生きること」についての考えに大きな変化が見られました。子供なりに、命についての考えを深めていることが分かりました。

2 実際の授業 9月28日（水）

【1年生】

1年生は「ハムスターの赤ちゃん」を読みました。ハムスターのお母さんと赤ちゃんの役割演技を行いながら、それぞれの立場になって気持ちを考えました。役割を演じることで、ハムスターのお母さんの赤ちゃんを思う気持ちを感じることができました。

子供は、「感謝」「思いやり」等のキーワードを使って発言していました。命の大切さを考える時間となりました。



【3年生】

3年生は「6歳のおよめさん」を読んで、ケイコちゃん、お父さん、お母さんという登場人物それぞれの気持ちについて考えました。一つの命に対して、いろいろな気持ちが関わっていることや、命が当たり前にあるのではなく、「普通に生きること」の大切さを考える時間になりました。

『失う命と助かる命に重いも軽いありません』この日考えた2人の話から、「生きること」について、考えを深めることができました。

【5年生】

5年生は「電池が切れるまで」を読んで、精いっぱい生きるとはどうすることかについて考えました。「命」という詩を書いた宮越由貴奈さんは、重い病気にかかり、永く病院に入院していました。病院で電池を使った理科の勉強をして、その後、「命」の詩を書きました。この詩を書いた4か月後の1998年、平成10年6月、11歳で亡くなりました。小児癌という病気でした。

由貴奈さんの「生きたくても生きられない命がある」という訴えから、子供は自分の命を輝かせることが大切であると、改めて考えることができました。

3 各学年で行った授業の感想

- ・ハムスターのお母さんは赤ちゃんに、「ずっとずっと大事な宝物だよ」と言っていると思いました。(1年生)
- ・前のひまわりを思い出すと悲しいけれど、今は子供でいっぱいになったから、ひまわりは嬉しいと思います。(2年生)
- ・お父さんやお母さんは、自分の子供が小児癌になってあと数カ月で死ぬと分かると、とても悲しいということが分かりました。(3年生)
- ・いじめをすると、友達もつ「すきなこと・やりたいこと」の時間がうばわれることになります。「一緒に遊ぼうよ」と声をかけることで、自分と誰かの時間が一緒になり、命をふくらませることができると思いました。(4年生)
- ・ぼくの命はお父さんとお母さんにもらった宝物です。だから、いやなことがあってもポジティブに考えたいです。「苦しい」とか「悲しい」とかの感情がなくなるようにしたいと思いました。(5年生)
- ・「生きる」とは、一番の幸せで、楽しく毎日を過ごすということだと思いました。(6年生)